平 成 29 年 度

学 校 評 価(結果)

本校の教育方針
1　知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで自主性，創造性に富んださわやかな生徒
2　国際的な視野をもち郷土や社会の発展のため積極的に行動できる次代を担う生徒
3　確かな学力を身につけこれからの社会をたくましく生き抜き未来を創造する生徒

徳島県立城西高等学校

総　括　評　価　表

重点課題 1
「**主体的な学びの創造と学びを活かす力の育成**」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 指導方法の工夫改善を行い，主体的な学びを創造し，学習意欲を高め、基礎的・基本的な知識・技術の確実な定着を図り，確かな学力と知識・技術を活用する力を育てる。	生徒の総合的評価「授業満足度」90%	生徒の総合評価「授業満足度」86.4%	B	評定 B 生徒の授業満足度は，例年並みの結果となったものの，目標を達成することはできていない。また，あたらしい検定受検ができるようになったこと，併せて高い級に挑戦する生徒が増えたことで合格率は下がったが，来年度も恐れること無く挑戦してもらいたい。総じて生徒と教員の挑戦と頑張りがよく現れている結果となった。図書を1冊以上借りた生徒の割合は目標を下回った。	B 確かな学力を何で評価するのかは難しいものがある。この土台となるものが学習意欲，動機付けをいかに図るか。それは教師の授業改善によるところが大きいと思われる。生徒が楽しいと思う授業作りに一層努めて下さい。	○今後は生徒の興味関心を高め，基礎学力の向上と主体的な学びに結びつくような，授業のさらなるレベルアップが必要。 ○検定試験への挑戦を更に促しながら，合格への指導を粘り強く続ける事が必要。 ○各教科や各ＨＲと連携を取り，授業やＨＲ活動での図書室の利用をさらに促す。
	①　生徒による授業評価「授業内容，指導の仕方」について3.5以上（4点満点）	①　生徒による授業評価「授業内容，指導の仕方」について　3.17	B			
	②　課題提出率100%	②　長期休業中の課題提出率　９９％	B			
	③　資格試験・検定受験者数1100（前1009）　合格率65%（前64.2%）	③　資格試験･検定受験者数1035（前1009）合格率51.1%（前64.2%）	C			
（下位組織レベル） ①指導技術の向上（授業改善）	④　図書を借りる生徒の割合７割以上	④　図書を1冊以上借りた生徒の割合57.0%（2/7までの集計）	C			
②家庭学習の習慣化 ③資格取得の奨励と補充学習の充実 ④読書習慣の定着化，読書の生活化	活動計画 ①　ICT・アクティブラーニングの視点を持つ研究授業・研究協議の実施	活動計画の実施状況 ①　ICT・アクティブラーニングを用いた研究授業・研究協議を国語・地歴公民・数学・理科・英語・農業・商業・家庭科およびホームルーム活動で１回以上実施。（他の教科についても２月中に実施予定）。	成果と課題 ①　本年度も概ね各教科で公開授業・参観，研究授業・研究協議等を実施できた。今後も一層の授業改善に向けてこの取り組みを継続していくとともに優れた実践を記録し共有していく方策を建てる必要がある。		学校関係者の意見 指導技術の向上に向けての取り組みは素晴らしい。	○今年度の取組みを継続するとともに今後は授業改善の効果の検証を行い，より効果のあるものにしていく必要がある。
	②　自宅学習習慣化のための家庭学習課題出題	②　教科・領域の特性に応じて出題形式や頻度も考慮した課題の出題を行った。自宅課題を出題している教員60%。	②　今後もこの取り組みを継続し，自宅学習の習慣化を支援していく必要がある。		家庭学習の習慣化を更に進めること	○各教科の特性に応じて今後も自宅で取り組める課題を継続的に提供していく必要がある。
	③　資格取得ガイダンスの充実と資格取得補習の実施	③　今年度から数学検定，毛筆検定・硬筆検定を本校で受験できるようになり，生徒の選択の幅が拡大・充実した。また，各検定ごとに10時間以上の補習を実施。	③　受検する生徒に偏りがあるので，全体に働きかけるだけでなく，個別に声をかける必要がある。実施時期が，被っている検定があり，十分な準備ができず，受検に望むことがあり，合格率を下げている。		合格率を更に上げるように努力人数及び本人の評価も兼ねてもらえると評価が見やすくなるかも。	○基本的な内容が身についたら模擬試験を多く受けさせて形式に慣れさせる。
	④　「図書館だより」（読書のすすめ、新刊紹介、図書委員によるおすすめ本の紹介）や年３回の「図書館フェアー」等による啓発	④　図書館だよりを年間12回発刊し，新刊図書を含む図書の紹介や読書に対する啓発を行った。図書委員による，おすすめ本の提出率は67%であった。生徒の作成した帯をつけた図書を入り口付近に配置した。学級文庫として各ＨＲにエシカル関係の書籍を配置した。	④　図書委員が一人１冊本の紹介文を書くことにより本と向き合う時間を持て，他の生徒への働きかけにもなり効果的であった。図書館だより家庭版を2回送付することによって家庭で本について話をする機会が持てた。学校全体の取り組みである「エシカル」について学級文庫を通して知ることができた。		図書の利用率を向上させること	○各教科や各ＨＲと連携を取り，授業やＨＲ活動での図書室の利用をさらに促す。

総　括　評　価　表

重点課題 ２
「**認め合い、支え合える人づくり、仲間づくり**」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
（全体レベル） 自分を大切にし、互いに認め合い、高め合い、支え合う態度を育て、人権を守る意欲と実践的に行動できる態度と能力を育てる。 （下位組織レベル） ①人権教育の充実 ②道徳教育の充実 ③家庭や地域，関係諸機関等との積極的な連携 ④特別支援教育の充実	評価指標 生徒の意識や実態についての調査をもとに，積極的な連携のもとで教育活動に取り組み，生徒の言動や行動の変容につなげているか。	評価指標による達成度 各種意識調査の結果を教職員が共有し，各ホームルームや学年，教科，全校等の取組を展開した。多くの生徒の言動や行動に向上が見られている。	評定 B	総合評価 評定 B アンケートの回収率や保護者の人権研修参加者数はほぼ達成し，作文や感想文を資料にする準備や，個別支援の検討も行われた。年度当初の各種調査をもとに，教職員や保護者が積極的に連携し，教育活動や研修に取り組むことができた。また，不登校傾向のある生徒への対応や，外国人の生徒へのサポート，不測の事態へのケアなどにも特別支援教育コーディネーターを中心に，組織的に対応することができている。様々な取り組みが功を奏し，落ち着いて学校生活を送ることができる雰囲気が生徒たちの間で徐々に形成されてきている。	B 多様な生徒がいる。一人一の個性を尊重し,認めることが教育を進める中で行われなければならない。そのためには，まず生徒を知ることが重要で様々な努力が為されていると思う。要は認める場面をいかに作り出すか，学習，部活動，その他の学校生活のいろんな場面がある。自己肯定感や自尊心を高める教育活動を更に進めて下さい。	○意識調査や個別支援状況等について共通理解し，教育実践や相談活動，人権研修に生かす取り組みを継続するとともに，教育活動全体を通して，生徒たちが自己肯定感や自尊心を高めることができる場面を意識的に作っていきたい。
	① 人権意識の変容の様子を読み取ることができる作文や感想文20作品以上を選び出し，資料とする	① 講演会の際に生徒に記入させた感想文や夏休みの自由課題の人権作文等から，今後，資料として残すものの選定を行う予定。	B			
	② 生活実態調査・道徳性といじめに関するアンケート回答100%	② 道徳性に関するアンケートを実施した。469名（96.1%）の回答を得た。	B			
	③ PTA 保護者の人権研修参加数平均４名以上	③ ７月に「人と防災未来センター」を見学し，保護者１２名が参加した。生徒向け講演会への参加者はいなかった。	B			
	④ 個別支援状況検討　年５回	④ 個別支援状況検討　年５回	B			
	活動計画 ① 「じんけん耕心」やホームルーム活動，人権講演会などの取組を実施する。	活動計画の実施状況 ① 「じんけん耕心」は，８月と１０月を除き，毎月発行した。ホームルーム活動は各ホームルームで４回，講演会は各学年で１回，全体で１回実施した。	成果と課題 ① 講演会やホームルーム活動で生徒に書かせた感想を見ると，人権についての理解，人権課題の認識，人権問題に取組む意欲等において向上がみられる。今後も継続したい。		学校関係者の意見	○生徒の実態や社会の状況をふまえて工夫を図りながら，取り組みを継続したい。
	② 生徒の道徳性の実態を把握し，学校生活のすべてにおいて，生徒の規範意識とコミュニケーション能力の向上をはかる。	② 道徳性に関するアンケートの結果を集計・分析し，生徒の道徳性の実態を把握するための資料を提供した。	② 自他の生命や個性の尊重に関して意識が高い。一方で，望ましい生活習慣の確立が今後の課題である。			○アンケートを２学期のはじめに行い，結果をその年度内の指導にすぐ生かせるようにする。
	③ PTA での啓発活動	③ 入学式後や PTA 総会の後に保護者に本校の取組について説明するとともに，研修会への参加も呼びかけた。	③ 保護者の理解と協力の下で人権教育や，PTA 研修を実施することができた。生徒向け講演会を早めに立案し，保護者に案内することが課題。			○生徒向け講演会を早めに立案し，保護者にお知らせできるようにしたい。
	④-1 特別支援に係る生徒の状況把握 ④-2 相談活動及び専門機関等へのコーディネイト ④-3 教職員の支援理解と技量の向上	④-1 新入生に対して中学校からの引き継ぎと入学前保護者アンケート(任意)を実施。自己チェックシートにて全校生徒の実態把握。ＦＭ補聴器利用生徒への消音支援や外国人生徒への漢字のルビうち支援実施。 ④-2 入学式当日リーフレットを配布して説明。第１学年集会にて「相談室からのお知らせ」を配布して生徒に説明。５月に全保護者へ啓発文書発送。スクールカウンセラーによる面談調整や他機関との連携。別室利用や別室登校の配慮をする。 ④-3 年度始業前に担任へ情報伝達し、全職員には職員会にて情報共有と支援理解を図る。年度末に担任と支援方法の検討。８月に教職員研修として「発達障がい(疑い)のある高校生の将来に向けての支援」と題する講演会を実施。	④-1 年度当初に多くの情報を得たうえで支援や配慮を考えることは安心したスタートに繋がり大変有効であった。ただ、生徒は日々成長しているため先入観をもち過ぎる指導は適当ではなく現状優先で接することへの留意が必要である。 ④-2 不登校傾向やコミュニケーション力の弱さによる欠席が多く、別室利用や別室登校、スクールカウンセラーとの面談等で対応した。特別支援教育推進委員会は、別室登校の内容で８回実施。また、外国人生徒には日本語講師による支援も行った。 ④-3 特に新入生の情報共有は行動の見守りや支援の検討に役立った。教職員研修会では、社会人になったときに苦手とすることを具体的に教えて頂いた。また、事故後の対応として「災害が起こったときの心とからだ」についての研修も行った。		不登校生に対する心のケアが重要なので引き続きお願いします。	○生徒の実態把握において、自己チェックシートや保護者アンケートをより有効的に活用したい。 ○定期的にスクールカウンセラーの利用をしていきたい。

総　括　評　価　表

重点課題 3
「社会的自立と主体的に生き抜く力の育成」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価				
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	総合評価（評定）	
（全体レベル） 望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせ，社会的自立に　向け主体的に進路を選択する能力と態度を育てる。	卒業生の進路決定満足度 90% （前87.2%）	卒業生の進路満足度 93.3%	A	評定 B 就職に関しては求人状況が良好で，生徒の希望する企業への訪問や面接指導に3学年団の教員だけでなく，多くの教職員が携わり，組織的な進路指導を行うことで進路決定者の進路に対する満足度が上昇している。生徒の応募前会社見学はミスマッチ防止のために有効だった。生徒の状況把握と必要な情報提供は3学年担任と連携して概ねできた。1･2年生への段階的な進路指導の在り方を強化させる必要がある。安易に進路決めて，ミスマッチにならないよう早い段階から目的意識を持たせる教育が必要である。入学時から系統的な進路指導体制の更なる充実に向けての取り組みが必要である。	A 本人に適した進路に導けるようにして下さい。 キャリア教育は，良くできていると思う。その結果としての進路決定率の高さだと思う。出口は結果であって入学してからの学校生活すべての過程が大事。その中で　いかに生きる力，生き抜く力を高め身につけていくか，そこのところを恒に考えた教育の実践に努めていただきたい。 卒業生の進路満足度が高いのがよいと思う。	○系統的な進路指導体制のもと，生徒一人ひとりに応じた進路指導を実施していくことが必要である。
（下位組織レベル） ①組織的なキャリア教育の推進 ②主体的に進路を選択する態度の育成 ③表現力，コミュニケーシ ④主権者教育の推進	①-1　進路決定率90%（前88.7%・2/14現在） ①-2　訪問企業数100（前93） ①-3　大学等学校説明会への参加15校（前17校）大学等の来校7校（前延べ13校） ハローワーク等との情報交換24回 （前24回）	①-1 進路決定率 95.1%（1月末現在） ①-2 訪問企業数 45 ①-3 大学等説明会への参加のべ17校 大学等の来校のべ14校 ハローワーク等との情報交換24回	A C B			
	②-1　進路ガイダンスに対する満足度95%（前95.6%） ②-2 進路指導体制の確立	②-1 進路ガイダンスに対する満足度 90.4% ②-2 進路指導の流れの明確化と公平・公正・総合的な選考の実施	B B			
	③　面接練習振り返り満足度85% （前82.5%）	③ 面接練習の満足度 82.4%	B			
	④-1 主権者教育講演会と研修会の満足度 生徒（3年生）（80%以上） 教職員　　（80%以上） ④-2 主権者としての自律（60%以上）	④-1　講演会　生徒満足度９９．６％ ④-2　次回の選挙に行きたいと回答した生徒　自律度８５．６％	B B			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	
	①-1　教職員の進路指導スキルの向上 ①-2　計画的な企業訪問の実施 ①-3　上級学校，ハローワーク等との密接な連携	①-1 3年担任については，1.2学期に上級学校17校の進学説明会に参加し進学先研究を行うとともに学年団で情報を共有。1・2年担任については1学期に基礎力診断テストの結果から進路指導の方針についての研修会を実施した。また，進学・就職の流れの説明・情報提供を実施した。徳島地域若者サポートステーションによる就労支援を必要とする生徒への支援例についての講義を受けた。	①-1 3年担任は上級学校の進学説明会に出席することで，理解が深化し，適切な進路指導が行えるようになった。また，1・2年担任は基礎力診断テストの結果の検討から今後の学習・生活指導の指針を得ることができた。本校ですでに行われているキャリア教育を教職員に周知して計画的・意図的に進めていく必要がある。		積極的にキャリア教育を行っている。 環境の好条件のみによらず,今後,有効的な就職等を維持できる情報の把握の的確をどのように高めるかを就職先と広く情報交換できる道をつなげて欲しい。	○今年度の取組みを継続するとともに，学年団で進路に関するより一層の情報の共有を進めていく必要がある。
		①-2 4月下旬から23名の教職員が45社へ訪問した。昨年度就職した事業所では，定着のための情報交換やアフターケアを行った。生徒の応募前会社見学は生徒45名がのべ32社で実施した。	①-2 求人数の増加によりほとんどの生徒が早期に進路を決定をしている。今後も生徒の希望する職種を確保するために積極的に企業訪問を行うことが必要である。			○企業訪問での情報収集やアフターケアの継続に取り組んでいく必要がある。
		①-3 進学に関しては17回の進学説明会・4回の進路ガイダンス等で上級学校職員と入試や学校独自の奨学金制度，進学した本校生徒の動向に関する情報・意見交換を実施した。 ハローワークへの訪問5回，来校1回，電話による情報交換18回実施した。徳島地域若者サポートステーションへの訪問1回，来校1回実施した。	①-3 進学説明会に担任が直接出向くだけでなく，日ごろから授業・講演会等で上級学校から講師を招くことで一層緊密な連携を図ることができた。次年度もこのような取り組みを継続していく必要がある。就職に関しては今後もハローワークと連絡を密にして，アドバイスや情報提供をしてもらえるようにしていきたい。			○今後とも機会をとらえて生徒の進路希望先と情報交換等を行い，連携を密にしていく必要がある。 ○ハローワークとの密接な連携を継続していかなければならない。
	②-1　進路ガイダンスと進路講演会の充実	②-1 進路ガイダンス1年2回，2年2回。進路講演会については，各学年1回実施。うずしお法律事務所から講師を招聘し，3年生対象に「これだけは知っ	②-1 9割以上が満足と回答しているが，今後も生徒の要望を可能なものは取り入れながら一層進路選択に資するものに改善していきたい。進路講演会を実施するこ			○今後も生徒の進路希望に応じた進路ガイダンス等を実施するとともに，生徒の視

		ておこう」と題して講演を行った。1・2年生対象にビジネスマナー講習会を行う予定。	とで進路意識の高揚が図れた。3年生は消費者として生活するうえでの基本的な知識を身につけた。また，3月に予定される1･2年生のビジネスマナーについての講義を通して進路選択に必要な知識・情報等を獲得することができきると思う。		野を広げるような進路講演会等を計画することも必要である。
	②-2　「産業社会と人間」，総合的な学習の時間「エポック」Ⅰの教材開発・カリキュラム開発と指導体制の確立	②-2 今の自分に何が必要なのか，何をすべきかを考えさせることを重視し，グループ活動を中心に，調べ学習やレポート作成，発表等を行った。	②-2 自分の将来を見つめながら，希望する進路に向けた資格や知識を身につけることが課題である。		○進路を見据えた資格取得への意欲の向上をはかることが課題である。
	③　組織的・系統的な面接指導	③　面接試験に向けて「面接ノート」を利用して自己理解を深め，自分の適性や長所を再確認し，自己ＰＲや志望動機を考えさせた。生徒1人に対して平均8名の教職員が面接指導に携わり，「面接ノート」を活用しながら共通認識をもって段階的に面接指導を進めた。	③　従来から受験報告書で各校の面接試験に関する情報を蓄積しているが，今後も生徒が自信を持って面接試験に臨めるよう指導していく必要がある。多くの教職員が面接指導に関わり，様々な角度から助言をすることで自信を持たせることができた。面接指導を受けた生徒のうち82%が「面接指導を通して自分の適性やよさについて考えることができた」，73%が「コミュニケーション能力が向上した」と答えている。		○常に生徒の進路希望先の面接試験について，情報の収集・更新に努めるとともに，一層手厚い指導が必要である。
	④-1　生徒（3年生）・教職員を対象とした講演会と研修会の実施（各1回） ④-2　主権者をテーマとしたホームルーム活動（1回）	④-1　（生徒）四国大学企画監 佐野義行氏 （職員）徳島県消費情報センター 坂田　雅也氏 を招いて講演会を行った。 ④-2　主権者意識の涵養をテーマとしたホームルーム活動を実施（１回）	④-1　生徒の有権者としての意識を育てる効果はあったと思われる。主権者という言葉の多様な意味が理解される講演内容や教材の準備が課題として残った。 ④-2　各種の行事や研修会が設定されており，そこに主権者教育関係の行事等を組み込むことが難しかった。		○主権者として主体的に社会に関わっていく意識や態度を育てる課題の精選が必要と思われる。

総　括　評　価　表

重点課題　4
「つながりと信頼関係を基盤とした生徒指導の確立」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 愛情と信頼に満ちた人間関係を構築し、社会の一員としての責任と義務を自覚させるとともに、自立心を養い規範意識を醸成する。	転退学者数　２％以内	転退学者は１．８％である。	A	評定 B 基本的な生活習慣を確立し充実した学校生活を送るとともに規範意識の向上に向けて取り組んだ。全校集会や学年会など集会をとおして粘り強く指導した。継続的な指導により転退学者も減少傾向で、生徒は落ち着いた学校生活が送れている。	B 以前にも述べさせていただきましたが，「城西スタンダード」とは何か，それをこの学校評価でも明確に打ち出していくことが必要ではないか。目標を明確にそれを教員，生徒が共有することが大事だと思う。生徒を信頼し愛情を持って育てていく城西高の教育を継続して下さい。	○城西スタンダードとは生徒に「基礎基本重点的の指導する教育」で将来社会で通用する生徒の育成を目指すものである。生徒指導の分野では、生活習慣の確立を第一に掲げ次年度も引き続き取り組む。
	①-1 服装頭髪検査の実施数　年間8回	①-1 服装頭髪検査を8回実施した。	B			
	①-2 問題行動指導回数　14回以下	①-2 問題行動指導回数11回となっている。	B			
	②-1 交通マナーアップ活動実施回数　3回実施	②-1 ３回実施した。	B			
	②-2 交通事故発生件数　15件以下	②-2 １７件発生した。車と自転車の接触事故が多かった。	C			
（下位組織レベル） ①基本的生活習慣の確立（城西スタンダード） ②交通事故の防止と交通マナーの向上 ③スマホルールの確立と指導の徹底	③ スマホの不適切な使用による特別な指導件数5件以下	③ ４件指導した。	B			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	○継続的な指導を行う。
	①-1　服装・頭髪検査の実施と継続的な指導 ①-2生徒指導課、学年団、管理職等による指導改善	①-1　学年集会や全校集会を利用して服装頭髪検査を実施 ①-2　担任・学年団を中心に継続的に指導した。	①　服装頭髪検査の継続的な指導により身だしなみについては改善されている。今後も学校と家庭が連携し取り組みたい。			
	②-1　自転車安全運転実技講習会、交通安全教室の実施 ②-2　自転車点検の実施 ②-3　登下校校門指導の実施	②-1　自動車教習所、西署交通課の指導をによる交通安全教室等を開催 ②-2　県、自転車整備士協会による自転車の安全点検を実施 ②-3　登下校時後面による立哨指導を実施	②　交通事故は自転車と車との出会い頭や接触等が多く、注意していれば防げた事故が多い。関係機関と連携して、交通事故防止に取り組みたい。		交通事故０に取り組んで下さい。 自転車事故を減らすための工夫が必要	○専門家の指導を頂き継続的に取り組む。
	③-1　城西スマホルールの遵守徹底	③-1　スマホの使用について専門家を招くなどして専門的な指導と継続的な指導を実施	③授業中の使用はなくなってきた。スマホの危険性などを周知することができた。			○継続的な指導を実施。

総　括　評　価　表

重点課題　5
「**個性の伸長と豊かな心の育成**」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価				
	評価指標 生徒の学校行事満足度　７０％	評価指標による達成度 学校行事満足度　８５％	評定 A	総合評価 評定 B 本年度は、前年度より部員数が減少したが、各部とも昨年よりも活発な活動がみられ、県高校総体でも入賞者が増えるなど、成績向上にもつながっている。特に、射撃部においては全国大会での優勝をはじめ、各種大会でも好成績を収めている。陸上部でも全国大会出場を果たした。全国高文祭では吟詠剣誌舞部門に参加し優良賞を頂いた。阿波踊り部は幼稚園や老人福祉施設への訪問などで交流を行った。	総合評価（評定） A 生徒が学校生活に充実感、満足感を持って毎日を過ごしている。このことが一番。生徒が様々な場面で生き生きと活動している場面が伺え，先生たちの努力に敬意を表します。「城西に来てよかった」と思える学校づくりをこれからも全力でお願いします。 内容の充実は，自己評価しやすい点もあり、よくわかる。今後、次の発展をどうしていくかを考える必要がある。	○生徒の意見や顧問の先生方と意見交換を行い、生徒・教員が活動しやすい環境を整えて生きたいと考えている。
（全体レベル） 集団活動を活性化させ、協働することやボランティア精神を育み、集団、社会の一員　としての自覚を深め、主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。	①　生徒会を中心とした参加度の高い学校行事の実施　２企画以上	①　あいさつ運動 ２学期球技大会でのＨＲＴシャツ着用 生徒会役員選挙で実際の国政選挙を模した形式で実施。	A			
	②　部活動加入率　７０％（前７４％）	②　部活動加入率　６７％	B			
	③　耕心祭入場者数 1500人(前1400人)	③　耕心祭入場者数　１５００人	A			
（下位組織レベル） ①生徒会の活性化 ③学校行事の充実 ④ボランティア活動の推進	④　ボランティア活動参加者数のべ100人（前130人）	④　ボランティア参加者数　１３０人	A			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	
	①-1 生徒による新しい活動の企画・運営	①-1　生徒総会で生徒からの要望のあった自転車置き場の電灯整備、制服の移行期間を早めることを行った。	①-1　他にも要望はあるが、費用面での課題が多い			
	①-2 学校行事への主体的な参画	①-2　耕心祭では総合学科を中心に意欲的に展示や模擬店の企画を行う。農業科では農産物や加工品の販売や藍染め体験を積極的に行った。「エシカル消費展」を企画し、フェアトレードチョコレートの販売や児童労働改善のための募金活動を行った。	①-2　今後は販売品の早い時期の売り切れに対する対応や駐車場がある。			
	①-3 社会貢献活動の企画・実施及び参加	①-3　生徒会と野球部による鮎喰川河川クリーン作戦に参加した。また、とくしまマラソンにもボランティア参加した。耕心祭では、農福連携事業の一環として福祉施設７施設の参加による生産品の販売を実施した。	①-3　鮎喰川河川クリーン作戦では、地域の方々と一緒にゴミを拾い、交流できた。農福連携事業の生産品の販売においては、生徒が販売場所の準備を行い、当日は多くの方が来場し、ほぼ完売した。今後も継続していきたい。			
	②-1 部活動顧問会議の開催と意見交換	②-1　熱中症対策として部活動顧問の研修会への参加。活動に必要な用具・設備をおこなった。また、保護者会などを実施し、指導方針や年間計画の説明を行い､部費の会計報告などを行った。生徒に部活動に関するアンケートを行い、結果を先生方に配布する予定である。	②-1　熱中症対策としてＯＳ−１の準備や夜間の練習に必要な照明の整備を行った。部活動が活発になってきたことから、まだまだ用具や設備の整備が必要である。今後も費用面と相談しながら検討していくことが課題である。部活動に関するアンケートの結果から今後の活動の参考としてもらいたい。		部活動の加入率の向上も必要であるが，週１，２回の休みも必要ではないか。 クラブ活動で充実した結果が出ている。	○各部休みのない練習日程ではないと把握している。活動と休養のバランスがとれるように顧問の先生方との連携を図っていきたい。
	②-2 ＨＰ等を活用した活動及び結果等の広報活動	②-2　多くの方に活動状況を知ってもらうためＨＰの更新を行った。	②-2　更新状況が部によって偏りがあった。すべての部において一定の更新を行い、活動状況を発信することが課題である。			
	③-1 総合学科の特色を生かした発表	③-1　「産業社会と人間」における服のチカラプロジェクトに関するパネル展	③-1　本校が取り組んでいる「エシカル消費」の推進にも一定の成果があった。			

		示やエシかるたの展示を行った。			
	③-2 広報活動の工夫	③-2　例年行っている広報活動以外に近隣幼稚園、小学校へのパンフレットの配布や市内中学校・高校へのポスター配布を行った。	③-2　来場者数は、目標を達成することができた。昨年から近隣幼稚園・小学校へのパンフレットの配布で子供の来場が増えた。今後も一人でも多くの方に来場いただき、本校の学習活動を理解していただく機会にしていきたい。		
	③-3 来場者が楽しむコンテンツの導入	③-3　子供や楽しめる体験コーナーや展示コーナー、昼食を意識した模擬店を設置した。	③-3　体験・展示コーナーでは、多くの子供は楽しみ、生徒にとっても交流の良い機会となった。模擬店・うどん販売を中庭付近とまとめて行い、飲食スペースも確保し、食事をしてもらえるようにした。		
	④-1 地域清掃活動の充実	④-1　部活動の生徒を中心に周辺の清掃活動を行った。	④-1　毎週１回朝清掃活動を実施した。秋から冬にかけ落葉樹の葉が風で近隣に飛んでいくため、近隣への迷惑とならないよう対応した。	活発なボランティア活動が行われている。	
	④-2 校外のイベントボランティアの参加	④-2　防災士の資格を今年も取得し、高校生の防災研修会への参加や地域の活動への参加を行った。また、阿波踊り部は、幼稚園や福祉施設・地域との交流を行った。他にもとくしまマラソン、交通安全キャンペーン、地域清掃活動などに参加。	④-2　防災士の地域の活動としてタウンウォッチに参加し、学校までの避難経路や危険場所を確認した。また、生徒会では生徒昇降口のガラスへの飛散防止フィルム添付作業を行った。阿波踊り部は、幼稚園や地域の祭りでの交流、老人福祉施設への慰問を積極的に行った。一人でも多くの生徒が様々な活動に積極的に参加できるように周知を行っていきたい。		

総　括　評　価　表

重点課題　6
「人・もの・自然のつながりを大切にする安全安心な学校づくりの推進」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価				
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	総合評価（評定）	
（全体レベル） 創造的な活動を通して、集団、社会の一員としての自覚を深め、健康、安全な生活、　環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。 （下位組織レベル） ①環境教育の充実 ②防災教育の充実 ③健康意識の高揚と啓発活動の充実 ④食育の推進及び啓発	校内美化に関する満足度75%（前70%）	校内美化に関する満足度72%	B	評定 B （所見） 衛生美化意識，環境・エコ意識はまだまだ向上の余地がある。ゴミの分別等，生徒の率先垂範した取り組みが必要である。防災訓練等の実施により，防災知識も高まっている。朝食に関する調査で，昨年度に比べて朝食摂取率が向上した。生徒の食に関する関心は前年度に比べ大幅に向上しているが，実践度との差が大きい。意識の高まりが実践につながるような指導の工夫をしていきたい。	B	○整美委員会活動の継続的実施。 ○防災教育や啓発活動の充実を図る。 ○基本的生活習慣を確立させ，食に関する実践力を養う。 ○食への関心を実践に結びつけられるような具体策を考え取り組みたい。
	①　ゴミ分別実施生徒割合80%（前64%）	①　ゴミ分別実施生徒割合80%	B			
	②　防災知識度70%	②　生徒の防災知識度65%	B			
	③　生徒の健康意識度60%（前53%）	③　生徒の健康意識度63%	A			
	④　生徒の食育関心度60%（前46%） 実践度50%（前43%）	④　生徒の食育関心度81.2% 実践度47.5%	B			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	
	①　教室等のゴミ分別の徹底	①　年度初めに各清掃分担場所の用具の充足度の確認と補充，破損物品の交換を行った。清掃分担場所の清掃重点項目チェックリストを作成し利用を呼びかけた。	①　清掃の満足度は生徒72%，校内美化の満足度が微増しており，少しずつ改善している。年度当初から，スムーズに清掃活動を始めることができた。		エコはゴミの分別だけでなく，農業学習の中でもできる。エコの視点をもっと広げることも必要か。	○各清掃分担場所の清掃状況の確認。
	②　効果的な防災訓練や避難訓練の実施	②　5/2.7/5.11/1の年間3回の避難訓練を行い，避難経路･地震発生時の初期動作・避難場所での点呼方法などを確認した。 10/17･18に1学年対象で防災訓練を実施。	②　1学年対象の防災訓練では，徳島西消防署員の指導により，起震車体験・水消火器体験･煙体験を全員が行い，有意義な訓練ができた。		日頃より防災に心がけて下さい。 防災では，まず自助そして共助。そのための人間関係の構築。自分の命を守りながら，周りの人を助ける。それができる人間に。意識化と行動化を同時に行うことが必要。	○避難・防災訓練の継続的実施。
	③-1　学校保健委員会の充実 ③-2　厚生委員会活動の充実	③-1　12/14実施。保健厚生課員の他，保護者および生徒の代表者，学校医，学校歯科医，学校薬剤師が参加した。 ③-2　12/2耕心祭で保健展を実施した。また，毎月ほけんだよりを各 HR ごとに朝の SHR で厚生委員が読んで紹介した。	③-1　環境衛生検査結果より学校のトイレの環境衛生について議論となった。トイレ・教室等，経年による老朽が見受けられるが，清掃を丁寧に行い，学校環境衛生の向上に努めたい。 ③-2　ジュースの糖量の展示は，「とてもわかりやすい」と好評であった。ほけんだよりを各 HR で読んで紹介することにより，健康に関する情報に触れる機会を増やすことができた。			○関係機関と連携し健康教育や保健指導を充実させる。 ○「保健だより」を活用し各ＨＲで啓発活動をより充実させる。
	④　家庭クラブで食育の啓発活動を実施「食育だより」の発行等（家庭・地域への情報提供）	④　7月20日，12月20日発行。生徒，保護者への配付。	④　学期毎の配付とし，内容も栄養や食中毒，食文化等幅広く興味の持てる工夫をした。		健康・食育の教育推進が必要。体育系部活動者を中心にして栄養学的な教育をすることが望ましい。	○今年度の取り組みをより充実発展させたい。

総　括　評　価　表

重点課題　7
「**学校の特色と地域の教育力を活かした魅力ある学校づくりの推進**」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） これまでの教育を充実発展させるとともに、時代や社会のニーズに応える多様な教育　を創造し、地域に根ざした活力と魅力ある学校づくりを推進する。 （下位組織レベル） ①農業教育の充実と活性化 （広報活動含） ③特色ある魅力的な学習活動(エシカル消費の推進等) ④連携事業の推進（高大、地域、産学官等）	平成29年度入学者選抜志願者数 定員の1.2倍	参考　今年度の特色選抜の志願者数は，定員の1.35倍		評定 A （所見） 専門的知識技術の向上や資格取得への意識向上を図り，生徒の進路決定へつなげていくことが課題となった。 コミュニケーション能力の向上や，生きる力を育み，豊かな心を育成する効果を上げることができた	**A** 重点目標は十分達成できていると思う。生徒の頑張りが見て取れる。生徒が自信を持って取り組めるそんな場面が，たくさんある学校であって欲しい。地域に生きる活動できる次代のリーダーを育てて下さい。 積極的な活動ができている 藍の取り組みは充実していると思いました。	
	①　学校農業クラブ四国・全国大会入賞 3種目以上 農場生産収入　900万円 ｱｸﾞﾘﾏｲｽﾀｰ申請取得3人以上	①学校農業クラブ四国大会１種目（分野２類優秀） 生産収入９６０万円（前９４０万円） アグリマイスター申請０名	B			
	②-1　交流学習実施数15回	②-1　生産技術科８回 植物活用科11回 食品科学科１回　ｱｸﾞﾘﾋﾞｼﾞﾈｽ科３回 計２３回	A			
	②-2　体験入学参加者数170 マスコミ取材15件	②-2 体験入学参加者数180 マスコミ取材36件	A			
	③ エシカル消費に関する活動状況の発信 ホームページ更新回数１０回以上	③　ホームページ更新回数１１回	A			
	④ 外部講師招聘数20回	④ 外部講師招聘回数47回	A			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	
	①-1 ＦＦＪ検定の継続とｱｸﾞﾘﾏｲｽﾀｰ制度を生かした学習活動の実施 ①-2 農商工教育活性化方針に基づく取組の着実な実施（農商工連携6次産業化の取組を含む）	①-1　ＦＦＪ検定を導入し，専門的な学習を評価することにつなげたが，本年度はｱｸﾞﾘﾏｲｽﾀｰ顕彰制度申請は０名であった。 ①-2　５つの方策を基に着実に成果を残すことができた。農商工連携６次産業化では科学技術高，徳島商業と連携し阿波藍を軸とした事業を実施し，刈取機改良や食べる藍での新商品開発を行った。	①-1　ｱｸﾞﾘﾏｲｽﾀｰ顕彰制度申請者０名となったため，学校農業クラブ活動等の活性化を図り各種発表上位入賞を目指す。そのために，指導体制の見直しや計画的な指導を行うことが課題である。 ①-2　農業教育活性化の基盤とするため，各方策の継続・改善を行うとともに，商工業と連携し高校生による６次産業化事業の実現に取り組む。			○プロジェクト活動を中心とした課題研究の内容の充実と指導体制の確立 ○６次産業化におけるスキルアップを図れるような取組を展開する。
	② 外部での農産物の販売や出前授業を通して，本校の学習成果を広く地域へ PR する。	②　外部販売回数１３回　出前授業２回実施した。	② 本校農業科の学習成果を広く地域で評価してもらうことで，生徒の農産物に対する自信をつけることができた。			○生産工程管理の徹底による安全安心な農産物を PR していく。
	③　エシカル消費に関する本校の取り組みをホームページで発信し，エシカル消費推進につなげる。	③-2　総合学科においては，「産業社会と人間」で，エシカル消費啓発活動としてカルタの，読み札と絵札作りに取り組んだ。「絵本の世界」では，エシカルに関わることをテーマとした絵本作りを行い，幼稚園での読み聞かせを実施した。 各取り組みをホームページで発信するとともに，耕心祭や図書館フェアなどにおいて，「エシカル消費」展を開催した。	③-2　啓発活動を実施する中で，生徒自身が自分にできることを考察し理解を深めることができた。「エシカル消費」の認知度の上昇が大きな課題である。			○今年度以上に生徒の参加度の高い取り組みを展開する。
	④　外部講師の積極的な導入と現場実習の充実	④ 生徒対象の授業・実習・講習会・講演会に15の教科・領域・校務分掌で38回，職員対象の研修会に9回，外部講師を招聘した。	④　生徒は外部講師による授業・講演会等を通じて，その主題への理解を深めるとともに実践力・コミュニケーション力も高めた。職員は研修会等を通じて専門性を深めた。また高大・地域・産官学の連携を推進することができた。これらの成果を踏まえ次年度以降も積極的に外部講師の招聘を進めていく必要がある。			○生徒の成長に資すると考えられる地域・高大・産官学連携を今後も一層積極的に進めていく必要がある。